

## 9 コウヨウザン植栽地の概況調査

### 9.1 調査の目的

コウヨウザンを用いた低密度植栽を普及させる基礎情報を得るため、コウヨウザン植栽地での活着状況等の調査を実施する。

### 9.2 コウヨウザン植栽地の調査

コウヨウザンは中国南部原産で、台湾にも分布し、現地では重要な造林樹種である。コウヨウザンの初期成長はスギ以上であり、下刈り回数の削減やシカ被害対策を講じる必要がない可能性があり、再生造林の停滞を打開する樹種として近年着目されている。

広島県庄原市の民地には50～60年生のコウヨウザン人工林が成林しており（図9-1）、この林分から得られた製材品（図9-2）で林業技術センターによる強度試験から十分な性能を有することが判明している。

広島県尾道市木ノ庄町のコウヨウザン植栽地（図9-3）において、植栽初期の活着状況や成長状態を調査した。H27年秋に植栽されたコウヨウザンで、H28年9月に調査を行った。植栽時の苗高は $17.7\text{cm}\pm 3.0\text{cm}$ （根元直径では $0.61\text{cm}\pm 0.1\text{cm}$ ）で、今回の調査から苗高は $31.3\text{cm}\pm 6.6\text{cm}$ で、約1年で平均 $13.6\text{cm}$ の成長であった。また活着率は97.5%であった。なお、ウサギによる食害が25.6%の苗木に認められたが、芯立ちで苗木が対応し致命傷にはなっておらず補植の必要はないことが分かった。



図9-1 コウヨウザン人工林



図9-2 コウヨウザン材のモデル家屋



図9-3 コウヨウザン造林地（広島県尾道市）